

# 「国際学 I チュートリアル」を通して得た今後の学習の方針

## ——政治参加を促す方法の探究を通して

202210861小高咲弥(総合学域群第2類)

### 1. チュートリアルで興味が広がった分野とその概要

「国際学 I のチュートリアル」の授業を通して様々なことを学ぶことができた。東南アジアや強権政治など、自分からは触れることがなかった分野の話を多く聞くことができ知識が深まったように思われた。その中でも私は政治参加に関する調査と発表、ディスカッションの授業が特に印象に残った。

政治参加とは「政府の政策決定に影響を与えるべく意図された一般市民の活動」である。その条件として次のことが挙げられる。

- ① 実際の活動である
- ② 一般市民の活動である
- ③ 対象が政府である
- ④ 実際に政府に影響を与えたかは問わない
- ⑤ 自主参加だけでなく動員参加も含める

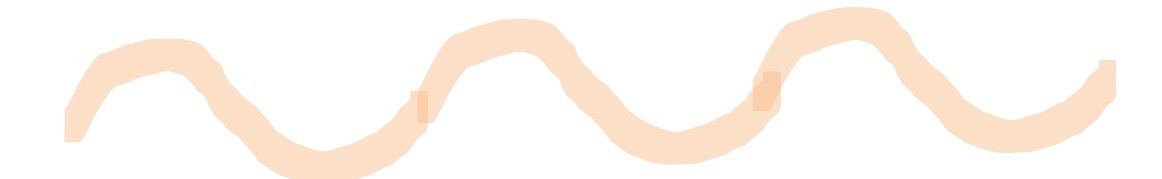


**投票**、選挙運動や投票依頼、立候補などの選挙に関する方法  
政治家や官僚、公務員との接触、  
政治資金の寄付、政治集会への出席といった直接的な関わり  
デモやマーチングなどの集団による方法 など

授業内での発表では、この中でも**投票**に関して**若年層の政治参加を促す方法**について調べ考察した。私はオーストラリアとスウェーデンを参考に、選挙のイベント化と主権者教育について提案を行った。政治教育に関しては「政治学の最前線チュートリアル」の授業で作成したポスターとの関連も深い。そのポスターの事項も参考にしつつ、国際学 I チュートリアルでの学びを通して政治参加とそれを促す方法について調べたことまとめ、今後の学習の展望を探る。

世界事典 ホーム ランク

順位	国	国政選挙投票率[%]
1	ベトナム	99.26
2	ラオス	97.94
3	ナウル	95.13
4	シンガポール	93.56
5	エチオピア	93.22
6	ルワンダ	93.04
7	マルタ	92.06
8	オーストラリア	91.89
9	トルクメニスタン	91.69
10	アンティグア・バーブーダ	90.27
11	ウルグアイ	90.13
12	ルクセンブルク	89.66
13	フェロー諸島	89.42
14	ボリビア	88.47
15	ベルギー	88.38
16	セーシェル	87.61
17	スウェーデン	87.18



134	アメリカ	56.84
135	キルギス	56.62
136	チャド	56.60
137	バヌアツ	56.47
138	セルビア	56.07
139	ザンビア	56.03
140	サンマリノ	55.73
141	アゼルバイジャン	55.54
142	ラトビア	54.58
143	ボスニア・ヘルツェゴビナ	54.03
144	ブルガリア	53.85
145	日本	53.68
146	ドミニカ国	53.66
147	セネガル	53.66
148	セントルシア	53.45

世界各国の国政選挙投票率

<https://theworldict.com/rankings/voting-rate/>

### 2. 日本の投票率とその低さに関する議論

- 日本の投票率は低いとあるが、他国と比べてみると実際どうなのか。  
→ 2019年の数値が53.68%で全体の**145位**で、確かに先進国に限らずとも十分に低い(右図参照)



投票率が高く、選挙制度が近い国を参考に**抜本的な改革が必要になる**

- 投票率の低さは本当に問題なのか。  
「国際学 I チュートリアル」では、「**非**平和な社会では**一般に投票率は高くなる**ことを習った  
→ 参加型民主主義に対し、**エリート民主主義**も一つの形なのではないか。



議会や専門家が最終的に判断を下すにせよ、  
多様な利害を持った市民による参加と熟議は、**論点を明らかにする**ためにも必要(森本, 2010)

### 3. 各国の投票率をあげる方法と政治教育のあり方の考察

- オーストラリアから見るの投票率をあげる方法

#### 1. 投票に行かないと罰金を課す → 制度を変えることは難しい

「政治参加の拒否」に対するコストを上げる

→ 「**動員**」へのアプローチ

民主的な選挙に整えられたオーストラリアにおいては、より多くの国民が参加することで民主的な選挙になる。



<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/feature/19968.html>

#### 2. 「民主ソーセージ」としても知られる、選挙のイベント化

選挙を身近なものとしてイベントの一環のように扱い参加したいと思わせる

→ 「**動機**」への働きかけ

イベントにすることで投票が当たり前になれば多くの人が時間を確保しやすい

→ **時間コスト**などの「**資源**」の要因にも働く

#### 3. 投票ガイド → 制度が異なるため活かすことは難しい

オーストラリアの下院は投票が比較的難しい

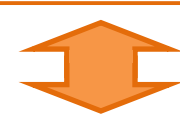
(投票者は候補者の優先順位をつけその集計をもとに計算して当選を決める)

そこで政党が、その政党を応援する際に適した候補者の優先順位を示す

調べる手間や細かな理解のコストを減らす

→ 「**資源**」の要因に対するアプローチ

イベント化などより**参加したいと思えるもの**に形を変えることで、  
特に若い人の**投票へのコストを抑える**ことができるのではないか。



「オーストラリアは義務投票など「**政治制度**」が異なるため、一概に比べることは必ずしも正しくはない」という指摘

…選挙を親しいものにしていくことも、義務として投票をしなくてはならないためにできたという指摘も

- スウェーデンから見るの投票率をあげる方法

「**若年層の投票率の低下は、若年層が中心になって考えていく必要がある**」

#### 1. 学校選挙と政党青年部、そしてこれらを含む**主権者教育**

選挙を自分ごととして考えることができるようにと意図されている

→ 「**動機**」に働きかけている

Q. 教育の場で政治を教えるのは問題なのではないか。

A. **投票に意義があるのだ**と思わせるための方法として、**シティズンシップ教育**は有用

↓

日本での例(『クリエイティブな教師になろう』を参考):

E高校…「シティズンシップ」の授業があり3年間にわたってディベートや探究学習を行う

実際に起きている論争的な問題を扱うことで、  
**自分とは異なる意見に気づき視野を広げたり、  
多様な意見の中で意思決定を行う民主主義の実践をしたりできる。**

私立F中学校・高校…ESDに基づく「総合学習」で地域社会学習を行う

**社会との関わりの中で問題意識と認識を豊かにし、  
挑戦や問題解決の姿勢を育むことができる。**

「生徒はすでに**社会に目を向け課題解決に寄与する力を持っており、**

教師は生徒が**経験を通して市民として学ぶ環境を作り、**

**成長を支援することが求められる**」(佐藤, 2018)

「小中高等の**有権者教育**は、試験や受験を念頭に置いた知識注入型の教育から、  
若者を実際に**投票へと導く実践的・具体的な教育**に重心をシフトするべきである。」

(竹島, 2016)



教師や**教育の関わり方**によっては**政治的関心や知識の向上、**  
そして**雰囲気改革**にもアプローチすることは可能なのではないか。

### 4. まとめとこれからの学習の方針

オーストラリアとスウェーデンの例から、投票率をあげるために日本ではどのような方法をとるべきかについて調査してきたが、

「**問いを提示して分析をし、それをもとに提案していく**」というこのプロセスが重要であると学ぶことができた。

また、他国と比較して方法を取り入れようとする際、良いところやその効用を見るだけでなく、

**自国の様子とその適性**についても注目する必要があるのだと学ぶことができた。

今回のチュートリアルにおいては発表やポスター作成に多くの時間を割くことが出来ず、その有用性について論理的に検証することは出来なかった。また、**基礎的な知識や経験の不足**を感じることも多かった。特に先生はもちろんのことTAやSAの先輩方の知見の広さには改めて驚かされた。様々な具体的な意見や考えを持っていたが、それらの**根拠となる事例や理論**などを多く持っており、その信憑性や客観性は高く納得させられることが多かった。これらの分野に関して多くの論文や文献を読みこむこと、そして意見や考えをディスカッションし合うことで多くのものを取り入れられるように研鑽に励む必要がある。

#### 引用文献

- ・竹島博之. (2016). 「意識調査から見た有権者教育の射程と限界」. 『年報政治2016 - I 政治と教育』, 11-30.
- ・佐藤博志. (2018). 『クリエイティブな教師になろう』. 学文社.
- ・近藤孝弘. (2018). 『政治教育の模索—オーストラリアの経験から』. 名古屋大学出版会.
- ・森本誠一. (2010). 「熟議民主主義としての市民参加型会議：日本における現状と展望」. 『待兼山論叢. 哲学篇』, 44. 他